

日本史演習1A－Ⅱ

科目ナンバリング SEM-302
選択必修 2単位

相澤 央

1. 授業の概要(ねらい)

日本古代史に関する論文の中から、報告者が関心のあるテーマの論文を選び、論文の要旨や意義、疑問点、批判点などについてレジュメにまとめて報告する。報告者以外の演習参加者も同じ論文を事前に必ず読み、自分の意見をもって演習に参加し、全員で討論する。授業は当番の司会者が、発表・質疑・討論の進行をして、最後にまとめる。

2. 授業の到達目標

- ①研究論文を読解し、要旨を簡潔にまとめる力を身につける。
- ②疑問点・批判点など、自分の意見をまとめて発表する力を身につける。
- ③各自の研究テーマを選び、関連論文を読み、史料を読解して、8,000字程度のレポートにまとめる。

3. 成績評価の方法および基準

授業での発表・報告レジュメ・討論への参加(50%)と、8,000字程度の期末レポート(50%)で評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

佐藤信編 『古代史講義－邪馬台国から平安時代まで－』 ちくま新書

『岩波講座日本歴史』1～5 岩波書店

『列島の古代史』2～7 岩波書店

5. 準備学修の内容

報告担当者は、選んだ論文の要旨と疑問点・批判点などについてまとめたレジュメを作成する。担当者以外も必ず論文を読み、自分の意見や疑問点などをノートにまとめて授業に参加すること。学期末のレポートの作成に向けて、関心のあるテーマに関わる文献や史料を読み、日ごろから各自で自主的に準備を進めること。

6. その他履修上の注意事項

卒業論文で日本古代史を希望する学生は必ず履修すること。この演習で選んだ研究テーマを卒業論文に発展させることが望ましい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--------------------------|
| 【第1回】 | ガイダンス。演習の進め方、論文リストの配布など。 |
| 【第2回】 | 報告担当論文の決定。報告・司会の順番の決定など。 |
| 【第3回】 | 報告担当者による発表と全員での討論① |
| 【第4回】 | 報告担当者による発表と全員での討論② |
| 【第5回】 | 報告担当者による発表と全員での討論③ |
| 【第6回】 | 報告担当者による発表と全員での討論④ |
| 【第7回】 | 報告担当者による発表と全員での討論⑤ |
| 【第8回】 | 報告担当者による発表と全員での討論⑥ |
| 【第9回】 | 教員による研究報告(オンライン授業) |
| 【第10回】 | 報告担当者による発表と全員での討論⑦ |
| 【第11回】 | 報告担当者による発表と全員での討論⑧ |
| 【第12回】 | 報告担当者による発表と全員での討論⑨ |
| 【第13回】 | 報告担当者による発表と全員での討論⑩ |
| 【第14回】 | 報告担当者による発表と全員での討論⑪ |
| 【第15回】 | 報告担当者による発表と全員での討論⑫ |